

平成 24 年度（第 134 期） 事業報告書  
(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

II. 事業内容

1. 公益事業

(1) 普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

① 講演会の開催

別紙明細の通り、春季公開特別講演会、秋季講演会及び計 6 回の地学クラブ講演会を実施した。

② 見学会の開催

以下の見学会を実施した。

i) 海外見学旅行

「カリフォルニアの地震・火山・氷河」 案内者 広島大学教授 奥村晃史  
平成 24 年 9 月 17 日（月）～9 月 28 日（金）12 日間（参加者 20 名）

ii) 国内見学旅行

「伊豆半島ジオパーク（候補地）下田周辺の地形と地質・伊豆半島の土台、主に海底火山の痕跡を中心に」

案内者 伊豆ジオパーク推進協議会 鈴木雄介，自然保護助成基金 目代邦康  
平成 24 年 9 月 9 日（参加者 22 名）

③ 広報活動

i) 日本地球惑星科学連合大会（平成 24 年 5 月 20 日～25 日）において、展示ブースを設け、協会の概要や最近の講演会及び見学旅行を紹介するパネルを展示するとともに、地学雑誌の特集号を中心とする頒布を行った。

ii) 懸案であった、協会ホームページのデザインを含めた更新を行った。

④ 日本地学史の編纂

戦後の地学史の「研究の成果（個別分野の調査研究）」のうち、地震学、海洋学、気象学、火山学の分野について、地学雑誌掲載用原稿のまとめを行った。また、地理学、陸水学、地球化学などの分野についても執筆のための準備を始めた。

⑤ 図書室の整備

内外の諸学会・機関から 95 種類の雑誌・ニュース等を受入れた。また、図書の整理を継続的に行った。

⑥ 専門家派遣（ジオエキスパート制度）

5 件の講師派遣依頼があり、それぞれに対応した。詳細については別紙明細に記した。なお、うち 2 件については、平成 23 年度中に打診があったものである。

⑦ 関連団体との協力の推進

i) 2013 年に京都で開催される「IGU 地域会議」組織委員会へ委員を派遣するとと

もに、組織委員会構成団体として財政的協力を行った。

ii) 日本地球惑星科学連合、日本自然史学会連合などの関連団体との連携を進めたほか、国際地理オリオンピック、国際地学オリンピック等への協賛あるいは後援を行った。

## (2) 出版・頒布事業（定款第4条第2号）

### ① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号2冊と最新の話題や成果を集めた特集号を4冊（121巻2号から122巻1号まで）を発行した（別紙明細参照）。総ページ数は、1,263であった。また、本誌発行2ヶ月後を目途にオンラインジャーナル（J-STAGE）として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を、特集号に関するものを含め16回開催した。

### ② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成22年3月1日に結ばれた「地球科学図及び地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等出版物を委託販売により頒布した。また、平成23年9月以降、海外からの購入希望にも応じる体制を整備した。今年度の頒布実績は、延2,415部、払出総額にして約417万円であった。

## (3) 研究等助成・表彰事業（定款第4条第3号）

### ① 研究等助成

今年度の申請件数は、研究・調査助成11件（うち3件は、「東日本大震災被災地学関連資試料の復旧・復興に関する活動」区分に該当）及び国際研究集会援助金3件であった。審査の結果、前者について9件が採択された。また後者については、助成金額を調整の上3件すべてが採択された。

### ② 表彰

地学分野において国内で顕著な業績を上げた者若しくは来日する著名な研究者等を対象とする「東京地学協会メダル」及び地学の普及に格段の尽力をした者を対象とする「地学普及功労賞」を設け、各賞の内容を定めた。

## 2. 収益事業（定款第5条第1号）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに必要に応じた改修を行った。今年度に実施した案件として、外構汚水柵及び同管路の全面的な改修が挙げられる。

[平成24年度事業報告書別紙明細]

### 1. 講演会の開催

#### (1) 春季公開特別講演会

日時：平成24年6月9日（土）13:30～17:00

場所：弘済会館

総合テーマ：「超巨大地震の真相に迫る」

開会の辞：松田時彦会長

演題 1)：「超巨大地震の科学」 池田安隆氏（東京大学准教授）

演題 2)：「津波堆積物から超地震に迫る」 平川一臣氏（北海道大学名誉教授）

（参加者：91名）

(2) 秋季講演会

日時：平成24年10月20日（土）14:00～16:00

場所：東京地学協会講堂

演題：「活断層調査の成果と課題」 今泉俊文氏（東北大学理学研究科教授）

（34名）

(3) 地学クラブ講演会（於 協会講堂）

・第273回 平成24年4月20日 「氷河地形学の最近の発展」 東京都立大学名誉教授 岩田修二 （16名）

・第274回 平成24年7月20日 「太古代－原生代の海洋底環境の復元：DXCL陸上掘削の成果」 九州大学大学院理学研究院准教授 清川昌一 （19名）

・第275回 平成24年9月21日 「わが国は資源大国か？－地学からの提言」 慶應義塾大学SFC研究所招聘研究員 鹿園直建 （22名）

・第276回 平成24年11月29日 「気候－植生相互作用－その地球科学的・生物科学的意義」 名古屋大学地球水循環研究センター教授 安成哲三（16名）

・第277回 平成24年12月21日 「日本の火山噴火予知の現状と今後の火山活動」 環境防災研究所長・東京大学名誉教授 藤井敏嗣 （29名）

・第278回 平成25年2月20日 「地震探査の進捗と伊豆弧衝突帯北西部研究の新局面」 帝京平成大学現代ライフ学部教授 伊藤谷生 （24名）

2. 講演会等への専門家派遣

以下5件の依頼があった。このうち、1)及び2)は、平成23年度中に依頼があり、本年度に実施したものである。

1) 依頼団体：東京都江戸川区子ども未来館

要望のあった内容と講座名：こども未来アカデミー「地学講座」

紹介講師：露木氏および田中艸太郎氏（東京地学協会会員）を紹介

日程：実施は、平成24年度12回（講師謝金：先方負担）

内容：「火山灰洗い鉋物観察」「大気圧」「水蒸気と雲や雨」「地球の自転と風」「太陽のエネルギー」「月の満ち欠け」「望遠鏡のしくみ」「宇宙の成り立ち（星の距離と明るさ）」等のテーマで計12回。

2) 依頼団体：東京都千代田区社会福祉協議会

講座名：千代田区立高齢者センター高齢者大学『自然科学～地学～』

要望のあった内容：地球や生物の進化から、自然災害（地震が発生する仕組み）や日本の活断層など。また、修学旅行先の説明。90分（全15回のうちの一回）

紹介講師：小川勇二郎（東京地学協会理事）

日程：平成25年1月25日に実施（講師謝金：先方負担）

3) 依頼団体：東京都葛飾区教育委員会

講座名：市民講座

要望のあった内容：「関東地方の地学」（1回）

紹介講師：佐藤興平（気象大学校講師）

日程：平成24年10月に実施

講師謝金：先方負担

（問題点）先方が不慣れなためか、不規則な連絡（たびたびの日程変更など）が多く、今後、注意が必要（あらかじめ、担当理事ないし紹介者を通じた連絡が必要と思われる）。

- 4) 2012年7月、NTVからの番組の紹介（一般の地学現象の解説に関する）の依頼があり、会員を紹介した。
- 5) 2012年12月、NHKからの仕事と称して、某報道関係者から、チリ海岸地帯の地学情報の提供の依頼があり、非会員を紹介した。

### 3. 地学雑誌発行明細

第121巻第2号 特集号：地球寒冷圏の地表変動—成果と課題— p.181-410 13論文（特集号序説を含む）掲載 地学ニュース（N11-N16）

第121巻第3号 小特集：南極寒冷圏の古環境学—南大洋から地球環境変動を探る— p.411-578 12論文（このうち、小特集：overview及び序論を含む7論文）掲載 地学ニュース（N17-N70）

第121巻第4号 特集号：世界の地理学（Part I） p.579-742 14論文掲載（特集号序を含む） 地学ニュース（N71-N100）

第121巻第5号 特集号：世界の地理学（Part II） p.743-928 14論文（特集号overviewを含む） 地学ニュース（N101-N107）

第121巻第6号 通常号 p.929-1106 13論文掲載 地学ニュース（N109-N118）

第122巻第1号 特集号：地下の遅い流体挙動（Part II）—フィールドと室内実験からみる— p.1-226 12論文（特集号overview及びイントロダクションを含む） 地学ニュース（N1-6）